

令和5年度 やまがた森林ノミクス県民会議 委員意見（概要）

日 時:令和5年10月16日(月)10:00~12:00

場 所:山形県庁 講堂

〔川上関係委員の意見〕

- ・やまがた緑環境税の活用により、県内の再造林面積や木材（素材）生産量は目標数値に近づいている。
- ・森林整備を行う人材が不足しているため、労働環境や賃金の改善を行っている。
- ・スマート林業の普及により熟年労働者から若年労働者中心の活動の場が広がってきている。
- ・若者が林業に興味を持ってもらえるよう対策していくので、行政のサポートもお願いしたい。
- ・人材育成について、来年度に開学する東北農林専門職大学には大きな期待を寄せている。
- ・ICTを活用した森林資源の解析、作業道の改築、無人の下刈機械、ドローンによる除草剤散布など、緑環境税の柔軟な活用を検討していただきたい。

〔川中関係委員の意見〕

- ・建築基準法の改正により、環境性能の高い住宅建築が推進されており、工務店等の要望に応じてJAS製材品などの高品質材を供給していく仕組みづくりが重要になってくる。
- ・業界団体と連携した県産材の需要拡大を図る対策を継続して講じてもらえると木材業界の活性化につながるので、県や関係機関の協力をお願いしたい。
- ・来年度から森林環境税の課税が始まるため、やまがた緑環境税と森林環境譲与税の使途の住み分けとその広報が一層必要になってくる。

〔川下関係委員の意見〕

- ・木材と原材料の単価の高騰により建築費は高い状況だが、住宅工事は増えている。
- ・県産材といえばほとんどがスギだが、スギは強度があまりないため、強度が必要な建築では県産材（スギ）を避けることがある。マツやヒノキなども植えてみてはどうか。
- ・ウッドショックの終息により県産材より外材（輸入材）を使う業者が増えるため、行政で県産材の使用に関する方針を出してもらえると、地元工務店やハウスメーカーなどで県産材を活用するようになるのではないかと。
- ・やまがた緑環境税の使途について、県民の理解が進むように広報活動をしっかりやってもらいたい。
- ・県産木材使用料を増やしていくので、木材の供給がなくならないようにしてほしい。

〔県民、行政、有識者関係委員の意見〕

- ・幼稚園や保育園の木造への建て替えが増えてきている。木に触れ合える環境は子供の成長に大きな影響を与えると感じている。
- ・都市部で活用しきれない森林環境譲与税を有効活用し、森林整備の人材不足対策など将来を見据えた使い方が必要。
- ・経済界ではGXの重要性が認識されてきており、クリーンエネルギーへの転換や投資を進めて企業価値を高める動きが活発になっている。

- ・やまがた緑環境税の YouTube の動画を気に入っているので更新してもらいたい。
- ・暮らしの一部に山を据えたいという思いがあり、山で暮らす魅力の発信を検討している。
- ・森林の所有者不明問題が解消するように森林所有の再編を後押しするような政策が必要。
- ・林道の開設・延長だけでなく、大型車両が通行できるように、既存林道の拡張も必要ではないかと考えられる。
- ・来年度から森林環境税の徴収が始まるので、やまがた緑環境税との二重課税と批判を受けないように、県民への丁寧な説明が必要。
- ・トラックやトレーラーによる木材の効率的な輸送を進めるうえで、公道での橋の重量制限、道幅やカーブなどが問題となる場合がある。林業振興にも影響するため、一般公道の管理についても配慮が必要。
- ・森林ノミクスの推進にあたり、森林に触れあって親しみを持ってもらう機会を用意することも大事。
- ・素材生産量の増加が各企業の収益の向上や職員の収入向上に結び付いているかどうか、県の予算の執行の費用対効果など、生産性の向上効果の目標設定も踏まえた事業実施が重要。
- ・県立農林大学校や（来年度開学する）東北農林専門職大学を卒業する技能に優れた人材が都会に流出せず、地域の社会づくりに参画していくような施策を探っていくこともこれからの大きな課題。
- ・きのこ・山菜などの特用林産なども、生産額の面で木材に引けを取らず、中山間地域の所得確保や活性化に貢献しており、山形を特色づける産物になっているため、その重要性を再認識していく必要がある。
- ・森林環境教育が進んできているが、最近の子どもたちから「木を伐ってはいけない、木を伐ることは自然破壊だ」という意見があった。今後は、緑豊かな環境づくりの姿が正しく理解されるような配慮も必要。

〔 議長（知事）のまとめ 〕

「やまがた森林ノミクス」の取組みは、先人から受け継いできた森林の多様な資源、魅力を積極的に活用して、活力ある社会を目指し、健全な姿で次の世代につないでいく。

これらの取組みは、SDGs の目標達成に向けて、さらには 2050 年までに二酸化炭素排出の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンやまがた 2050」の実現にも大きく寄与する。

各委員のからいただいた意見は、「やまがた森林ノミクス」の次の 10 年の施策に役立てていくので、今後とも皆さんと推進していきましょう。